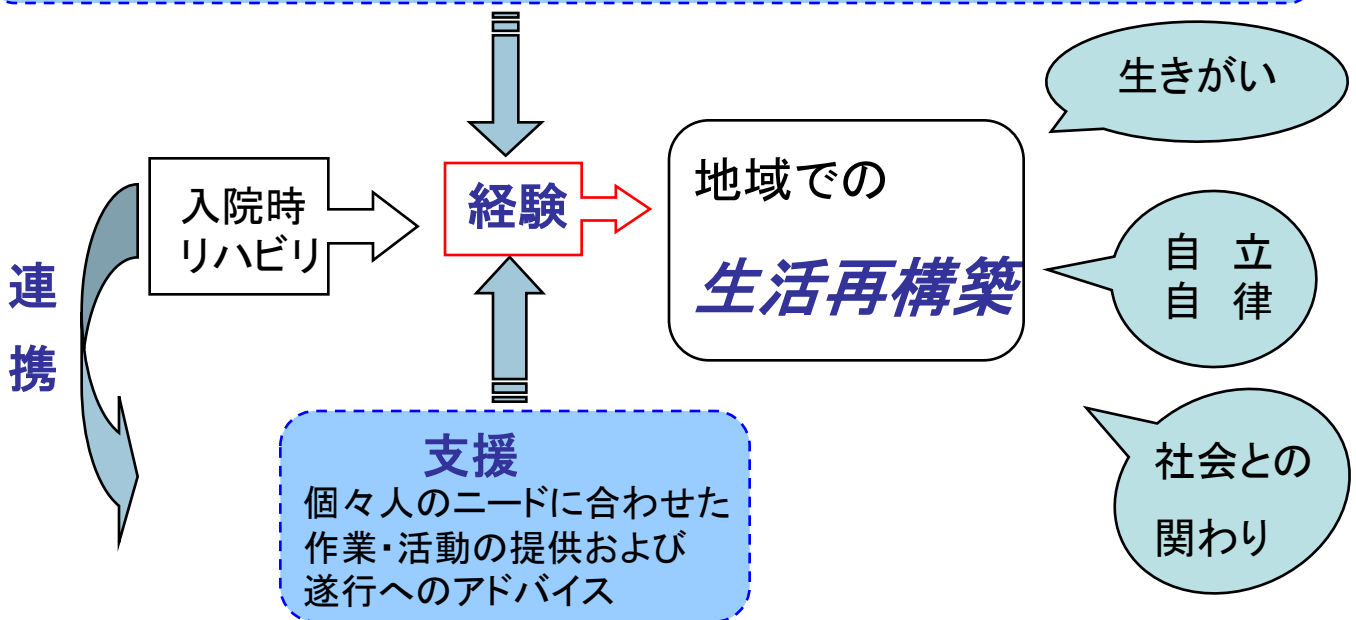


障害者の地域での生活再構築プロセスへの取り組み

中村真理子・後藤葉子・他 保健医療学部作業療法学科基礎作業療法学講座

障害をもつ人が治療的リハビリテーションを終え、地域に戻り生活を再構築しながら社会参加を目指していくためには総合的な支援体制づくりが必要である。その実現のためには地域リハビリテーションの実践拠点施設の整備が重要となる。われわれは在宅障害者を対象に生活適応能力に主眼をおいたサークル活動を実施してきた。障害者が自己の能力で活動をやり遂げる力を獲得すること(生活力の向上)は、家庭さらには社会においての役割を確立することに繋がり、本人の生活への満足度も格段の向上を示すものとする。

退院後の地域での生活を維持するためには、病院でのリハビリテーションで学んだことを個々の生活の中で実践し、さらに展開させるための経験の場が必要である。



本活動 は、作業療法の専門性を生かした生活能力の獲得支援という、社会および地域貢献の一翼を担えるものとする。

期待される効果:

- ・日常生活の自立
- ・家庭内役割の獲得
- ・仲間づくり
- ・社会生活能力の獲得
- ・趣味・生きがいの獲得
- ・外出機会の増加・社会参加

発展性:

- ・障害者が自立的な生活を実践するための環境作り
(安全で使い勝手のよい生活用品、ユニバーサルデザインの開発)
- ・研究
身体機能に応じた、適切な日常動作に関する研究
活動がおよぼすQOL、生活満足度への影響に関する研究
活動における体力と疲労に関する研究
- ・他分野との協力体制の確立